

# 募集班長の模型部屋（第15回）

皆さん、こんにちは。皆さんは同じ車体、同型の車両のプラモを複数持っていたとき、例えばゼロ戦21型と22型とか、タイガー1型中期生産型と後期生産型とか、T34シリーズとか・・・皆さんはそれぞれ1台ずつ製作しますか？一挙に複数の車両を製作しますか？まあ、そんなに一挙に購入できないよ！という方も多いのですが、今回は初の大人買いと一挙作りにチャレンジしました。先日紹介させていただいた高機動車と同時発売された

## 高機動車（機関銃装備）です。



ほぼ同じキットを2両並べて作るのは少々贅沢な感じがする反面、キットを大切に作っていないのではないかとこの自責の念に襲われてしまいましたが、部品の切り出しや塗装に至るまで、同じ作業工程で2両出来るのですからメリットのほうが大きいし、何よりも2台が同時に完成に近づいていくのが楽しかったです。キャンバストップとの違いはというと、やはり2体の自衛隊員フィギュアでしょう。機関銃手の胴体が少々長いのでは？と感じてしまいましたが・・・皆さんはどう思われますかね。後に出てくる写真を見てください。そもそも、偵察隊の73式小型トラックのように、威力偵察をする事が無いのに、対空火器にもならないMINIMIを搭載する事があるのかな？と、普通科出身の広報官に聞いたら「車両で部隊が移動するときに、警戒担当車両として部隊単位ごとにこのような車両を指定しますよ。」と聞いて納得。やはり、使用していた隊員に聞いてみるもんです。



たった1丁の機関銃が着くだけでなんか強そうなイメージになりますよね。キャンバス  
トップの場合と違い、車内の状況が丸見えですので、実車の写真を参考に塗りました。車  
内の汚れ具合も実車と経験上の泥の流れ具合や付着具合を思い出しながらウェザリングス  
ティックを塗って、ぬらした綿棒でふき取る作業を繰り返しました。最近はこの手法が私  
のブームです。



車内底部の汚れ具合。(右)窓ガラスにも、同様にスティックで泥汚れがうっすらと付  
いたようにしてみたのですが、なんか違う・・・今後の課題です。



フィギュアについては機関銃手の胴体が長いような気がするのですが・・・出来れば弾薬や水筒等の装具もつけてほしかったです。いずれ他のフィギュアから複製して着けようかと思っています。迷彩服のパターンなのですが、「老眼」のせいなのか塗るのがつらくなってきました。今、デジタル迷彩が流行なのか、わが自衛隊でも海空の自衛官の戦闘服がデジタルになっています。いずれ陸自もデジタルになると思われますが、想像しただけで恐ろしいです（泣）



運転を経験した広報官によると、運転はしやすいみたいです。車体後部のマッドガードは破れやすいとの事から取り外されている車両もあります。





車体の泥・埃についても、第13回で紹介したとおりでウェザリングスティックを使用しています。タイヤハウス周りはタイヤの幅をカバーできているためあまり泥が付着しません。



同じオープンにしたパジェロと並べたり、キャンバストップの高機動車と並べたりしてニヤニヤしています。なんか自衛隊車両がそろってきてくれて自衛隊車両ファンの私としてはうれしいです。



さて次回は、自衛隊の車両も尽きてしまったので、旧軍の戦車を紹介する予定です。

引き続きお付き合いくださいね。

それではまた。